

平成 28 年度 第 6 回 糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会

議事録（要旨）

1 日 時 平成 28 年 8 月 19 日（金） 14 時 30 分～17 時 00 分

2 場 所 糸島市役所 本庁舎 新館 4 階 3 号会議室

3 出 欠

(1) 出席者

(委 員) 谷口委員長、池添副委員長、藤井委員、今泉委員、徳田委員、柚木委員
石川委員、小川委員、桑野委員

(事務局) 洞総務部長、山崎企画監、久我係長、富村主査、西原主査
日本経済研究所 1 名、西日本シティ銀行 1 名

(2) 欠席者 なし

(3) 傍聴者 なし

4 会議結果

【会議次第】

1 開会

2 委員長挨拶

3 報告

- (1) 第 5 回糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録について
- (2) 糸島市運動公園整備に係る検討の状況報告

4 協議

- (1) 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針（案）について
 - ・小学校施設・中学校施設
 - ・庁舎等施設
 - ・道路・橋りょう・上水道・下水道
 - ・その他（道路・橋りょう・上水道・下水道以外）のインフラ施設
- (2) 糸島市公共施設等総合管理計画における数値目標について

5 その他（次回第 7 回委員会は 10 月 14 日を予定）

※後日、10 月 19 日に変更となる。

■報告内容についての意見交換等は以下のとおり

【（1）第 5 回糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録について】

特になし

【（2）糸島市運動公園整備に係る検討の状況報告】

特になし

■協議内容についての意見交換は以下のとおり

【（1）施設類型ごとの管理に関する基本的な方針（案）について】

・小学校施設・中学校施設

●E委員

P. 13 は中学校施設の試算結果について記述しているが、「本市の小学校施設」となっており、「中学校施設」の誤りではないか、また、第1期から第2期にかけて大規模改修が集中し、約81億と書いてあるが84億ではないか。

●事務局

ご指摘のとおり誤りである。修正する。

●I委員

小学校の統廃合の考え方について、検討が未着手というのはいかかなものか。この会議の趣旨として、その点がはっきりしていないというのは、むずがゆい感じがする。改善や改修の考え方の中で、将来的な経営方針について、先行して検討すべき施設などがあるが、全体の予算をハコモノと中の運営とに分けるならば、ソフトの方が重要ではないか。ハコモノのことが決まってないが、ソフトは最小限に抑えるという捉え方について確認したい。

●事務局

統廃合については、市のまちづくり全体に繋がってくるが、市の総合計画の中にも校区まちづくりを推進しており、基本となる単位が小学校区となっている。今後、統廃合を考えないといけないとなれば、例えば、コミュニティの単位と小学校の単位を分けるなどの整理をしないといけないので、現状では打ち出せていない状況にある。将来的な運営方針について未確定の中、手を入れることは慎重に考える必要があることから、方針が決定するまでは必要最低限のことをやっていくということを書いている。

●E委員

「方針を決定する」というのは、この意見をもとにしながら具体的なことを決定するのはどこになるのか。

●事務局

個別具体的な施設の話は、この委員会ではなく、市の内部の機関で決定する。具体的な施設の話はもう少し先の段階の議論になってくる。

●E委員

教育となると、効率化では判断しづらい部分もあるので、子どもの教育を市としてどうしていくかも検討して方針を策定していただきたい。

●A委員

ここで議論していくのは大きな考え方であって、個別の話として、それぞれの施設で具体的に決めていく場ではないとの理解でよいか。

●事務局

そのとおり。

●B委員

将来的な運営方式などを先行して検討する必要がある施設としているが、運営方式ではあいまいな書き方なので、具体的にした方が良い。

13 ページの中学校の修繕、改修の考え方のところも同じように書いてあるが、中学校についても同じく具体的に検討するということでよいか。

また、施設更新の考え方に複合化を強調する書き方となっているが、中学校との複合化が想定される施設は近隣に立地していないと思われるが、具体的にどういった施設を想定しているのか。

●教育総務課

将来的な運営方式は、小学校と同じで、旧市町ごとに異なっているケースがあり、運営方式が決まらない中では、施設の方針に関する議論ができない状況にある。

複合化については、小学校では公民館や高齢者いきいの家などが挙げられる。中学校については、小学校との複合化も考えられる。

●事務局

小学校との複合化のほか、例えば二丈中学校については、周辺に高齢者福祉施設や公民館等がある。このように施設がある場合と、周辺に施設がない場合もあり、現在のようない記載になっている。

●I委員

例えば、小中学校を複合化してどのようなメリットが出るか、現時点で具体的なイメージを有しているか。デメリットもあるのではないか。

●教育総務課

全体的な配置や生徒数にもよるので、そういう考え方もできるという程度。デメリットとしては、運動場などの共用部分について調整が必要となる点が挙げられる。

●A委員

糸島の長い歴史のなかで、統廃合の事例はどの程度あるのか。

●事務局

増えた事例は結構あると思うが、減った事例は、知る限りでは、芥屋小学校と小富士小学校が統廃合されて引津小学校になった程度。

●E委員

佐波分校が廃校になった。いくつかあるが、増えた方が多い。分校の状況がわかれば教えてほしい。

●教育総務課

平成24年度末に白糸分校が廃校になっている。王丸分校は現在休校となっている。瑞梅寺も40年程前に廃校になっている。

・庁舎等施設

●F委員

旧二丈庁舎と旧志摩庁舎は、同じような機能を持たせているが、建物本体自体の耐用年数が違う。二丈は新しいが、志摩は耐震状況も全く異なる。同じような計画にしているが、実際は違うのではないか。

●事務局

現状では同じような整理の仕方をしているが、来年度以降の個別施設を検討していく段階では改修の時期も異なると考えているので、そのあたりが分かるようにマネジメント方針も修正したい。

現状は会議室等も入っており、今回のマネジメント方針の中では複合化を基本として

いる。2つの建物の中には、図書館が入っており、図書館サービスとの関係も踏まえ、方針を明確に打ち出す必要があると考えている。

●F委員

1市2町が合併しており、それぞれに同じような施設がある。財政が大変だから色々やっているのだから、将来的には糸島市は1つだという枠組みを柱にして考えていかないといけない。住民サービスを考えるとあった方が良いので、そちらとの整合性はあるが。

●事務局

合併して6年経過しているが、思い切ったことをやっけていかないと施設を維持できないと考えている。合併したから増えた施設を持ち続けてきたことも行政として反省がある。後ほど検討いただく目標値を達成していくためには、英断していく必要があり、個別計画の中でやっけていかないといけないと考えている。

●G委員

先ほどの運動公園の報告でもあったように、新しい体育館を造り、古いものを廃止し1つにまとめるといったような統廃合をしないと仕方がないのではないか。

●B委員

今の議論と違う方向の意見になるかもしれないが、交流プラザ二丈館と志摩館は、既存施設を有効活用するという意味ではモデル的な施設という印象を受けている。図書館や子育て支援機能など重要な機能も入っているので、複合化のモデル的な事例と考えている。施設更新の中に、二丈館・志摩館はこれから見直しするという書き方となっているのに対し、設置の考え方の中では当面利用状況を見るところとしており、この書き方だけを見ると「とりあえずの複合化」という印象を受ける。そのあたりの考え方をもう少し聞きたい。

●事務局

現状を見ると利用状況が低いので、複合化を基本に検討するというところを施設更新の考え方のところで表している。

本来であれば、地域の拠点として運営されることが理想だが、実態としてはあまり利用されていない状況である。再度、現状を把握したうえで、どういった機能を導入したら良いか、本格的な複合施設とするためにはもう一段階の検討が必要ではないかと考えている。

●B委員

書き方の問題と思うので、新しい試みであり、これからの利用状況を検証したうえで、見直し、検討するという書き方にしてはいかがか。

●G委員

二丈館の場合、2階が会議室と災害時の備蓄などになっているが、空いている時に使えないという議論が過去に何度もなされている。3階の公民館が満員の際も、2階を使うことが市に認められない。交流プラザ全体は教育委員会が管理しているが、2階のみは、別になっている。

●事務局

今の話は把握しておらず確認を取りたいが、現在2階は災害時の対策本部用の部屋と会議室を確保している。

●G委員

臨機応変な対応を期待したい。

・道路・橋りょう・上水道・下水道

●F委員

建物は統廃合や廃止といった話になるが、橋や道路は基本的には廃止とか統廃合にはならず、補修して使っていないといけないという理解で良いか。

●事務局

長期スパンで考えれば、橋りょうなどは、近くにいくつかあれば、1つなくすことも考えられなくもないが、基本的には長寿命化や維持管理のやり方も見直して経費を落とすしていくことが主な取組みになる。

●C委員

上下水道について、例えば上水道の管の耐用年数が40年で、それを超えた時に、人口が減っていらなくなった場合に、埋めたままにしておくのか、掘り起こして古い管を取り除くのか。

●水道課

もし誰も使わない管であれば廃止ということも考えるが、管は繋がっており、その先に給水が必要であるので、耐用年数の到来により使用しない管はあまりないと思う。

●A委員

インフラ施設になると、実際に使っている人がいるので簡単に廃止することはできないが、全体の財政負担を考えるうえで、数字で見ることは必要。

●D委員

水道事業への包括的民間委託の導入や、道路の維持管理もまとめて一括発注するなど、ランニングをどう抑えるかということがポイントではないか。道路を更新できないから廃止するというのは非現実的だと思う。

●G委員

65 ページの今後の新設計画及び費用の見通しで平成47年までに市全域の下水道整備を完了させるとあるが、市全域というのは旧前原・志摩・二丈全域という解釈で良いか。

●下水道課

平成47年度までに完了させるというのは、今現在計画にある旧前原地区、旧志摩地区の一部で、残りについては計画にない。

●事務局

表現を見直す。

・その他（道路・橋りょう・上水道・下水道以外）のインフラ施設

●H委員

今説明のあった部分が、地元にとっては、色々心配を持ってやっているところであり、特に農道の整備などは、市から材料支給をしながら地元でやってもらわないとできないと考えている。河川やため池のしゅんせつが多くなってきており、そのままにしておくと災害が多くなってきたり、遅れば多くの資金が必要になる。市の財政から見て無理

なところもあるので、県や国の事業を利用しながら進めてもらいたい。

【(2) 糸島市公共施設等総合管理計画における数値目標について】

●F委員

床面積 25%減という考え方は、建物全部を壊してしまうのか、それとも 4 階建てを 2 階建てにすると耐震化しやすいとか、そういった一部を減らすのを含んだものか。

●事務局

全てを壊すこともあるが、場合によっては、建替える時に目安として 25%減らすなど、施設の性格や状況によって異なる。全体として 25%の削減を目指すという考え方である。

●F委員

床面積と費用が同じかという違和感もあるが、目標値としては床面積でいこうということか。

●事務局

そのとおり。目標設定のわかりやすさを重視した。

●I委員

削減することによって、誰かが困ることがあってはいけないので、その整合性が課題。

●B委員

適正な考え方ではないかと思う。人口減少時代にあって、これまでの施設では持ち過ぎていたので、個々の施設の規模を適正化していくことが大きな方針であって、統廃合によって施設そのものの数を減らしていくという 2 つの方法があるのはそのとおり。

●事務局

事務局としては、計画を策定して、市民に説明をしていかないといけないが、その時に聞いて理解してもらえるような目標設定と説明になっているかについて、特に意見をいただきたい。

●I委員

会議に出ており、予備知識が入っているから分かるのだと思う。担当の部署の人しか分からない言葉ではなく、住民の人でも分かるよう平易かつ少ない言葉で説明する必要がある。

●F委員

「何故 1/4 減らすのか」の何故を説明しないといけない。不便になるのに、何故減らさないといけないのかを説明しないといけない。

●I委員

市が「財政が困難」だと言ってしまうとお金の無駄使いを考えろとなるが、人口が減少するというのが一番の問題というところを理解してもらわないといけない。ここに来て初めて、私も数字を見て大変という気持ちになった。

●G委員

人口の問題は市長が現状より 2,000 人増やすという目標を掲げているので、人口が減ってくるということとは矛盾するという問題がある。

● I 委員

何年か先であれば、そうであるが、40年スパンで見ると、やはり減ってくる。

● C 委員

1/4の根拠が、公共建設に係る改修・更新費用推計となっているので、人口とは関係ない。人口減や高齢化によって利用する人が減ってくるというのは、説明はしやすいが、数字との紐付けが難しい。分かりやすくするには、単純ではあるが、積み上げの棒グラフにして足りない分を維持管理費から1/4減らして投資的経費に回すなどにした方がよいのではないかと。

● D 委員

さいたま市などは、総量規制をテーマにして、施設を複数の用途で使っていくなど複合化を全面に出しているやり方をやっている。1つの建物でも、色々な用途で効率的に使っていくという言い方をすれば、お金がないので1/4カットするというよりも、1/4は複合化でカバーしていくという発想の方が住民のサービスは低下しないと思う。

● A 委員

何も工夫しなければ1/4減らさなければいけない。民間と一緒に工夫して維持管理費を賄うなどすれば維持できる。

● I 委員

空きスペースに何を貼り付けるかという考え方ではなく、そこがどう回っていくかというイメージまで含めて組み立てていかないといけない。

● A 委員

モノがあるからどう使うかではなく、そこに何が必要かを考えて、やるとなればスペースが必要という発想でやっていかないといけない。

● B 委員

類型別マネジメント方針の下水道施設であった平成47年度まで新設とあったものは、ここの推計に含まれているのか。

● 事務局

推計は、あくまで総務省ソフトの推計を用いているので、マネジメント方針にあった新設は含まれない。財政の立場から言うと、こういった現状が分かった状況で、これ以上広げて良いのか、検討する必要があるのではないかと。

● B 委員

マネジメント方針でこれだけはっきり書いてしまうと、推計との整合性との問題がある。マネジメント方針の書き方を考えた方がよいのではないかと。

● 事務局

今までは各課で独自に作った計画をそのまま公表してきたので、推計費用が財政との協議が整っていない中で数字であり、類型別方針の数字を見直すのか検討したい。

● A 委員

総合管理計画の考え方として、インフラも含めて全部を議論したことが重要である。それぞれの計画があり、難しい部分もあるので、フレキシブルに対応してほしい。

公園事業の場合、これからどんどん公園を整備する訳ではないので、投資的経費というよりも、トイレ改修や植栽といった維持管理経費の方が実際に困っている問題と思う。

●E委員

学校の場合、それぞれの校区が伝統的にあり、簡単に統合という訳にはいかないと
思う。小規模校だから統合したら良いのかというと、単純にはそうはいかず、小規模校な
りの良いところもある。市民に理解してもらうことが重要で、こういった話はマイナス
なイメージで伝わりがちであり、危機感を煽って危機意識だけが膨らむのではなく、も
っと前向きに、例えば持続可能な街づくりという発想があり、より良く人が地域で豊か
に生活していくためにはどういうことが必要かというのが前提にあって、パイが少なく
なる中で、こういうことも仕方がない、こういったことにも参画していかないといけない
という流れの中での提案であれば、重要だという意識になると思う。

●A委員

学校が地域のコアとなり、子どもたちが教室として使うだけでなく、夏休みには地域
の人が使うなど、前向きな発想が必要。学校面積としてはそのままだでも、地域の施設と
してもっと役に立つ使い方をすることが必要。

●I委員

校区を残して、子どもたちだけ別の学校に通わせるということはできるのか。例えば、
学校だけ残して他のものに活用するとか。

●事務局

そのような方法も検討する必要はある。

●I委員

先ほど、小学校と中学校を一緒にした場合、グラウンドと体育館が足りなくなると言っ
ていたが、小学校と小学校を一緒にしたら、生徒が増えてもグラウンドと体育館の利用は
一緒。

●E委員

小学校と中学校を一緒にした場合、施設だけの問題ではなく、配置される教員の問題
もある。地域の統合と教育のあり方も整理して考えていかないといけない。地域の保護
者が、今のままでは子どもの教育が十分にできない、例えば、子ども同士の関わりが狭
くなったり、部活ができないなど、そういうことを保護者が理解してくると統合という
話が底辺から起こってくる。それが重要。

■その他についての意見交換は以下のとおり

【(1) 次回委員会の検討内容について】

●事務局

次回は10月14日(金)15:00~17:00。検討内容は、取組方針と目標の協議を踏ま
えて、計画書のパブリックコメントを12月に実施するので、原案を提案したい。

※ 後日、糸島市より次回委員会については、10月19日(水)9:30開始の旨、連絡
あり。

以上